



# 一月(大)睦月 軫宿

一月五日小寒の節より  
月命己丑九紫火星の月  
暗剣殺南の方

(東京) 日出 日入  
11日 六五二 一六、三八 旧十一月大  
1日 六五一 一六、四七 旧十一月小  
21日 六四八 一六、五七

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六種	中段	共宿	満潮	干潮
1	日	木	きのと	乙亥	三碧	●元日、年賀、初詣、歳日祭、修正会、初亥、一粒万倍日、不成就日 旧正月大 旧己丑十一月大	十三	大安	とづ井	4.08	14.15
2	日	金	ひのえ	ね丙子	四緑	初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀、初子、一粒万倍日	十四	赤口	たつ鬼	4.59	15.14
3	日	土	ひのと	うし丁丑	五黄	○望一九時〇三分、福岡宮崎宮玉せせり	十五	先勝	のぞく柳	5.40	16.05
4	日	日	このえ	ら戌寅	六白	初寅、小つち、三隣亡	十六	友引	みつ星	6.17	16.51
5	日	月	このえ	う己卯	七赤	小寒一七時二三分、初水天宮、官守御用始め、六日年越し、公現祭、高崎だるま市、東京消防出初式	十七	先負	みつ張	6.52	17.34
6	日	火	かえ	たち庚辰	八白	七草、人日、初巳、福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ	十八	佛滅	たいら翼	7.23	18.15
7	日	水	か	と辛巳	九紫	学校始業、初葉師、東京鳥越神社とんど焼、三隣亡	十九	大安	さだん軫	7.52	18.56
8	日	木	このえ	ま壬午	一白	宵えびす、京都西本願寺報恩講(16日迄)、不成就日	廿	赤口	とる角	8.19	19.40
9	日	金	このえ	ひつじ癸未	二黒	一〇番の日、初金毘羅、十日えびす、十方ぐれ入り	廿一	先勝	やぶる亢	8.45	20.31
10	日	土	きのと	さる甲申	三碧	●下弦〇時四八分、鏡開き、藏開き	廿二	友引	あやぶ氐	9.12	21.38
11	日	日	きのと	とり乙酉	四緑	●成人の日	廿三	先負	なる房	9.42	23.17
12	日	月	ひのえ	いぬ丙戌	五黄		廿四	佛滅	おさん心	10.19	—
13	日	火	ひのと	る丁亥	六白		廿五	大安	ひらく尾	2.31	11.09
14	日	水	このえ	ね戊子	七赤	十四日年越し、仙台とんと祭、大阪四天王寺とやどや、一粒万倍日	廿六	赤口	とづ箕	3.46	12.21

冠 冠は、加冠(戴冠)の儀という男子の元服を代表にしたもので、人間が成長し、人格が形成されていく段階において行われ、数々の儀式的総称である。

一月の冠儀は成人式に極まる。一月第二月曜日(平成十一年改定)。

婚 婚姻、婚礼は、季節にほとんど関係がないといつても過言ではない。寒中であれ暑中であれ、日柄さえよければ、挙式する習わしであるが、農家では、比較的ひまな一月に式を挙げる人が多い。

15	日	木	このえ	う己丑	八白	小正月、小豆がゆ、全国緑化キャンペーンやぶ入り、賽日、えんま詣り、真宗本派親鸞聖人忌、土用二時〇三分、防災とボランティアの日、秋田平山三吉神社梵天祭、一粒万倍日、不成就日	廿七	先勝	たつ斗	4.21	13.48
16	日	金	か	えとら庚寅	九紫	●朔四時五二分、天一天上 旧十一月小	廿八	友引	のぞく牛	4.49	14.50
17	日	土	か	と辛卯	一白	初観音、臘日	廿九	先負	みつ女	5.16	15.34
18	日	日	このえ	ま壬辰	二黒		卅	佛滅	たいら虚	5.42	16.12
19	日	月	このえ	とみ癸巳	三碧		朔	赤口	さだん危	6.08	16.47
20	日	火	きのと	う甲午	四緑	大寒一〇時四五分、二十日正月、三隣亡	二	先勝	とる室	6.33	17.23
21	日	水	きのと	ひし乙未	五黄	初大師	三	友引	やぶる壁	6.59	17.59
22	日	木	ひのえ	さる丙申	六白	黙阿弥忌	四	先負	あやぶ奎	7.25	18.39
23	日	金	ひのと	とり丁酉	七赤		五	佛滅	なる婁	7.51	19.23
24	日	土	このえ	いぬ戊戌	八白	初地藏、東京巢鴨とげぬき地藏尊大祭、奈良若草山焼き、不成就日	六	大安	おさん胃	8.17	20.15
25	日	日	このえ	とみ己亥	九紫	初天神、東京亀戸天神うそ替え、法然上人忌	七	赤口	ひらく昂	8.44	21.20
26	日	月	か	えね庚子	一白	●上弦一三時四七分、文化財防火デー、道元禪師誕生会、天理教本部春季大祭、旧正月納め、旧針供養、一粒万倍日	八	先勝	とづ畢	9.13	22.46
27	日	火	か	と辛丑	二黒	国旗制定記念日、道丁尊大祭	九	友引	たつ觜	9.49	—
28	日	水	このえ	ら壬寅	三碧	初不動	十	先負	のぞく参	1.56	10.40
29	日	木	このえ	う癸卯	四緑	一粒万倍日	十一	佛滅	みつ井	3.55	12.21
30	日	金	きのと	えとら甲辰	五黄		十二	大安	たいら鬼	4.30	14.17
31	日	土	きのと	み乙巳	六白		十三	赤口	さだん柳	5.00	15.23

葬 生者必滅、これを避ける者はなく、たとえ王者といえども例外ではない。そしてその命尽きるとき、季節を問うものでないことはもちろんである。

従って葬儀そのものは、一月に大きな関係はないが、この月七日までのいわゆる「松の内」は仏式では葬儀を差し控えるならわしである。

祭 暦とは切っても切れないのがこの祭祀、すなわちわれわれの遠い祖先から伝わった「お祭り」の年中行事である。

まず、年の初めの「元日」。一年間の出発点として、太陰暦時代から今日に至るまで、数々の風習が伝承されている。初詣、年始回り、門松、鏡餅、若水、屠蘇、雑煮、おせち料理等、地方により家庭により、多少の差異はあるが、この日を祝わぬ人はほとんどない。三日までを「三が日」といい、その間の二日は初荷、初夢、書初め、仕事始め……など縁起を祝う。七日は「七日正月」といい、十五日は「小正月」として、それぞれの習慣による祭事を行うが、七日の七草がゆについては、冬のビタミン補給だとする合理的解釈もある。